

第1学年O組 社会科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 古代までの日本と世界

2 単元の見目標

- (1) 古代までの日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 古代までの日本に関わる諸事情について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

3 学習の計画 (18時間完了)

- 第1次 第1時 人類の誕生から古代までの日本と世界の動きを大観し、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 第2次 第2時～第6時 人類の誕生や世界の古代文明、宗教のおこりについて調べる。
 第7時～第9時 日本列島に人が住み始めたことからヤマト王権の成立までを調べる。
 第10時 「よろいを着た人物のなぞ」について調べる。
 第11時 東アジアの統一国家について調べる。
 第12時(本時) 聖徳太子と飛鳥文化について調べる。
 第13時 律令国家の成立について調べる。
 第14時～第17時 律令国家の政治の展開について調べる。
- 第3次 第18時 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 蘇我氏や聖徳太子が進めた政治の特徴を捉え、どのような国づくりを目指したのかを考えたり、説明したりすることができる。
- (2) 準備・資料
 - 生徒……前時までのワークシート、資料集
 - 教師……ワークシート、大型ディスプレイ
- (3) 関 連

小6 社会 天皇を中心とした政治(天皇中心の社会が確立までの人々のくらしや人物の働き、海外の国と日本の国との関わりについて調べる)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかかむ	1 本時の学習課題をつかむ。 (1) 聖徳太子が行った政治について、小学校の学習内容を振り返る。 ・法隆寺を建てた。 ・遣隋使を派遣した。 (2) 本時の学習課題をつかむ。 蘇我氏や聖徳太子が進めた政治には、どのような共通するねらいがあるのだろうか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聖徳太子が行った政治について、知っていることを発表させる。 ○ 蘇我氏や聖徳太子が進めた政治に関わる資料を大型ディスプレイに提示し、気付いたことや疑問に思ったことを問い、本時の学習課題の設定につなげる。 ○ どのような国づくりのための制度や事業だったのかに着目し、比較して考えていくことを確認し、学習課題の解決の見通しをもたせられるようにする。

追 究 す る	2 蘇我氏や聖徳太子の政治の特色を捉える。 (1) 蘇我氏や聖徳太子が行った国内政治について調べる。 ・冠位十二階の制度や十七条の憲法により、儒教や仏教の思想を取り入れたり、天皇の力を強める体制づくりを進めたりした。 (2) 遣隋(唐)使の派遣の意図について調べる。 ・小野妹子らを遣隋使として派遣し、隋と国交を結び、新しい政治や文化を取り入れようとした。	25	○教P. 40の資料を用い、蘇我氏や聖徳太子の国内政治と対外政策のそれぞれの特徴や政策の意図をつかませる。 ○教P. 41の系図を用い、蘇我氏や聖徳太子の関係を読み取らせる。 ○生徒の気付きや疑問に応じて、新たな資料を大型ディスプレイに提示したり、調べることを焦点化したりする。 ○教P. 41の年表を用い、6～7世紀初めの日本と東アジアの動きを時系列で捉えさせる。 評 それぞれの政治を比較しながら、共通点を見つけ、その理由を考えている。 (ワークシート)
	3 飛鳥文化の特徴について理解する。 (1) 飛鳥文化について調べる。 ・法隆寺 ・四天王寺 ・釈迦三尊像 ・玉虫厨子 (2) 飛鳥文化の特徴を考える。 ・中国や朝鮮などの文化の影響を受けた、日本で最初の仏教文化である。	35	○建築や彫刻に関わる資料を用い、日本と海外の作品を比較して、飛鳥文化の特徴を捉えさせる。 ○隋や唐の中国統一などの海外情勢が倭国に与えた影響を踏まえ、仏教を積極的に取り入れた理由を考えさせる。 ○板書を基に、政治と文化の特徴について分かったことを確認させる。
	4 蘇我氏や聖徳太子の進めた政治に共通するねらいを考える。 (1) 自分の考えをまとめる。 (2) 友達と考えを共有し合う。 ・隋が中国を統一する中、大陸の新しい政治や文化を取り入れ、国のしくみを整えることが共通したねらいであった。	47	○本時で学習してきた政治と文化の特徴を比較して、共通するねらいは何かを考えさせる。 ○記述した内容について友達と共有し合い、よりよいまとめを考えさせる。
ま と め る	5 本時の学習を振り返り、次時の活動について知る。	50	○本時の学習課題を追究する中で、自分が学び取ったことやさらに調べてみたくなったことなどを記述させる。 ○振り返りで書かれた内容については、次時の学習に生かすようにする。 ○次時の内容に関わる資料を大型ディスプレイで提示して予告をする。

(5) 本時の評価規準

- 蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業の共通性に着目し、そのような政治を行ったねらいについて、自分の言葉で説明している。(ワークシート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 生徒の多くは毎時間の学習課題を的確に捉え、歴史的な見方・考え方を活用して追究しようとするが、社会的事象の「比較」では表面的な理解に留まってしまうことがある。

(2) 指導の力点

- 蘇我氏や聖徳太子が進めた政治の特徴やその共通性を的確に捉えさせるため、資料の提示の仕方や板書を工夫し、調べることを焦点化したり、視覚的な支援をしたりする。

6 指導と評価